

## 編集後記



最近セレンディピティ (serendipity) という言葉をいくつかの本で目にした。手元の辞書によると「ものをうまく見つけ出す能力, 掘り出しじょうず, 運よくみつけたもの」となっている。語源はイギリスの Horace Walpole が友人宛の手紙で, 自分の体験した偶然による発見を表現するために使った造語だそうである。セレンディブ (セイロンの旧称) の王子たちが, 旅の途中で探し求めていたのではないが, 偶然と彼らの賢明さから, 発見を重ねていくという物語にちなんだものだろうである。目にした一つは, 昨年ノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士の講演記録の文章で, もう一つはフラーレンの教科書である。奇しくもフラーレンの発見に対しても1996年ノーベル化学賞が授与されている。最近の二ホウ化マグネシウムによる高温超伝導体の発見もまさにセレンディピティといえるだろう。最後に白川先生の文章から, 「……したがって, 探し求めた末に到達した発見や発明はセレンディピティではありません」。

(Y.N.)